

スカイポットの皐月賞予想2009

火花を散らす横綱対決！ロジュニ◎

①強い先行馬がいる皐月賞は…

若駒分析ナビゲーションで早くも評価をしていた馬たちが活躍してくれています。桜花賞を勝ったブエナビスタは牝馬番付で横綱にしている馬で、牡馬フランクでも牡馬番付の横綱であるロジュニヴァースとリーチザクラウンに期待が高まります。

さて、近年、差し追込脚質の人気馬が馬券圏から消えて好配当というのが多くなった皐月賞ですが、今年はその2強(あえて3強とも言いませぬ)が揃って逃げ先行脚質となっています。しかも2頭とも前走が逃げである点は過去に例がない構図でしょう。このようなケースではどういうスタンスで馬券を考えれば良いのでしょうか、過去に1番人気馬が逃げ先行馬だった年を抽出して検討してみます。

＜抽出条件＞過去20年、1番人気かつベストパフォーマンススレース(以下BPR)が道中ずつと5番手以内だった馬、または、同じく道中8番手以内(かつ出走頭数の1/2以内)で4角3番手以内だった馬
90アインスフジ②、91トウカイテイオー①、92ミノルポ①、95ダイタクテイオー⑧、00ダイタクテイオー②、01アグネスタキオン①、03ネオユニヴァース①、04コスモバルク②、08マイネルチャールズ③

結果はダイタクテイオーを除き、全て馬券圏に入っています。ダイタクテイオーは完全に押し出された1番人気馬で、馬券に絡んだ8頭中7頭が皐月賞TRを2人以内で勝利、残り1頭(アインスフジ)は朝日杯1着、共同通信杯1番人気1着、中山TR使用馬でした。ダイタクテイオーは除外とします。

1番人気馬が絡むという点は配当が安くなります。抽出した過去20年の中8年では、1～3着が1～3番手で決まった年が3回あります。今年の1番人気になるだろうロジュニヴァースは王道のローテーションですら、馬券圏から落ちることは想定し難く、ガチガチの決着も想定に入らなかつ馬券を組んでいなければなりません。逃げ先行に人気馬がいれば展開の重心が前に行くのでハイペースになって差が決まる、という考え方もあります。抽出した8年で馬券の先行となった馬のベストパフォーマンスの脚質を調べてみます。なお、先行は先ほどの概念と同じです。

90①ハクタイセイ(先行)、③メジロライアン(捲り)、91②シャコグレイド(先行)、③イデゼン(追込)、92②ナリタイセイ(先行)、③スタンマン(先行)、アサカリジェント(先行)、00①エアシャカール(捲り)、③チタニック(追込)、01②ダンツソール(差し)、③ジャンクボケット(先行)、03②サクラブレジデント(先行)、③エイシンチャンプ(先行)、04①ダイワメジャー(先行)、③メイショウボーラー(先行)、08①キャプテントウレ(先行)、②タケミカツチ(先行)

先行馬の占有率は71%(17頭中12頭)にも及びます。当日も先行したかは問わない条件です。間髪に先行馬を狙えという意味ではありませんが、近走のレベルの高いレースにおいて先行で前だけのスピードを持った馬の好走が多いということでしょう。人気馬が前に行くから相手は差し追込馬だと考えるのは早計のようです。2頭とも差しが入った00年はメンバーレベルが低かったことも影響している印象です。

なぜ前が潰れないかというと、皐月賞が行われる中山2000mがコーナーが4つある形状になっているため過度なハイペースになりにくいからではないでしょうか。皐月賞は弥生賞よりも道中のラップが締まった流れになり、また、最終週のため馬場が悪くなるので、弥生賞で好走したタイプとは異なるタイプの馬が好走することが知られています。過去20年の皐月賞のラスト3Fを見ると、ラスト2F目から1F目に0.5秒以上の減速が起こっているのは、90.92.95.97.06.08年の6回しかありません。ラスト2F目はほとんどが12.0秒より速いので、強い先行馬がいるにないにかかわらずバタバタの消耗戦になることは少ないです。また、0.5秒以上の減速が起こっているのは06年を除き勝ち時計が2分1秒以上かかる重めの馬場状態でした。つまり、勝ち時計が2分を切る近年の高速馬場ではラスト1Fのラップが落ちにくく、結果前残りになりやすいのです。

今年の勝ち時計を分析するに当たって、過去7年の皐月賞前週の芝レースの勝ち時計をピックアップしてみました(参考：添付資料「BABdate2009sats」)。これを見て、前週の勝ち時計の出方と当日の勝ち時計が正比例の関係にあるように見えます。今年も02年、04年ほどの高速馬場ではありませんが、05年、06年くらい馬場状態であり、昨年のように2分1秒以上かかることはないと思います。

従いまして、今年も人気馬が逃げ先行馬ですが、極端なハイペースにはならず、先行した実力馬が好走して相手もBPRが先行タイプの馬を本線にするのが良いと考えます。

②データアートによる予想

昨年はタケミカツチのBPRを弥生賞ではなく共同通信杯としてみました。たまたま本線の中を逃してしまいました。データアートで印を打った3頭中、マイネルチャールズ、キャプテントウレが1着、3着に好走しました。引き続き良い分析ツールとして活用したいところです。今年の称号データと烙印データの分布については天星スコープの下段に掲載しておりますのでこちらは見方だけ記しておきます。

本命は「★優秀格」等称号3つ保有のロジュニヴァースで問題なく、連対はほぼ確保できるでしょう。出走メンバー全体の称号と烙印の付き方を見ると1着固定でも良さそうな印象です。対抗が「★佳良格」を持っているリーチザクラウン。ただ、この称号は「外枠難」に脆く馬券に絡めないことも多いという見方と、先行馬なら好走確率が高いという見方がそれぞれありまして、どっちに転ぶかはわかりません。他に称号馬はいまいませんので▲はなし。△を打てるのは、内枠の格印1つ以下の馬、リクエストソング、ナカヤマフェスタ、それから烙印のないアーリーロブストです。皐月賞データアートをそのまま読むと、以上5頭が有力と判断されます。

アンライバルドは「外枠難」について烙印2つになってしまったので軽視になります。能力的にもロジュニヴァースやリーチザクラウン程のパフォーマンスを見せたことがないので妙味を考えれば良かったですね。

ということで完全にデータアートだけで馬券を組むなら、ロジュニヴァース軸で4頭に流す馬連と、ロジュニヴァース1着固定で4頭に流す3連単を推奨します。

③先行等級、末脚等級データの解説

以前のレポートやブログで検討を重ねた結果、皐月賞を好走するには「皐月賞を4角5番手以内で通過」「皐月賞で上がり3Fが1位か2位の末脚を使う」の2パターンあることがわかり、事前に可能性を評価するためのツールとして「先行等級」「末脚等級」のデータを作りました。

ただし、先行等級については、このデータだけでは予想ができるように、速いペースで行って4角、5番手以内にいるだろうがバテるパターンに該当する馬の先行等級を低く算出されるような計算式となっていますのでご注意ください。

先に「先行等級」から説明いたします。添付「SENdate2009sats」をご覧ください。それぞれの馬について、基礎値20にベストレース(BPR)及びセカンドレース(2番目のBPR、以下SPRという)のレース格(G2、G3などの単純な格付けではなく、レースによってそれぞれ格付けされています)及び道中の位置取りに応じた掛け目(いずれもシート上段に書かれている数値)が掛け合わせて算出されています。

例えば、ロジュニヴァースの先行等級は、基礎値(20)×BPR(格0.90×位置0.45)×SPR(格1.10×位置0.85)=8.3と計算されています。BPRが差しの場合や関連レース(格が黄色以上)を使用していない場合、SPRに該当するレースがない場合(ただしBPRが黄色のレースならなくとも減点しない)等、更に掛け目が増えます。

今年のメンバーで高い調整先行等級(20未満)を出しているのはロジュニヴァース、リーチザクラウン、ミッキーベトラ、アーリーロブストの4頭です。昨年は1～3着馬全てが調整先行等級20未満の馬でしたから、人気薄であっても考慮の余地があります。

続いて「末脚等級」についてご説明します。添付「SUEdate2009sats」をご覧ください。こちらは過去4走について、基準指数(73)から当時の指数を引いた値に、上がり順位、展開の有利不利、距離、クラス、位置取りの各掛け目をかけた数値を出し、その平均値を末脚等級としています。ダート戦、新馬戦及び昨夏ローカル戦以前は参考外としています。

今年のメンバーの高い調整末脚等級(25未満6位以内)を出しているのはロジュニヴァース、リーチザクラウン、ナカヤマフェスタ、アントニオパローズ、リクエストソング、アーリーロブストです。アンライバルド、セイウワンダー、フィフスベトルは末脚等級が高かったものの、外枠の掛け目を計算したところ等級が落ちてしまいました。

双方のデータからの推奨はロジュニヴァース、リーチザクラウン、アーリーロブストの3頭です。ナカヤマフェスタ、リクエストソングはデータアートもクリアしていますから、好走の可能性はありそうですね。

④天星指数とSHPによる各馬診断

天星スコープを作成する際に各馬の前5走を確認して、そこでインプリントされたSHP等をお伝えします。

1. ロジュニヴァース(横山典)
これまで重い馬場ばかりで実績を積んでおり、高速馬場を中回待機するような展開では取りこぼす可能性を否定できないが、2004年以降の高速馬場ではいまい、枠順とこの馬の先行力を鑑みればあまり後ろに来ることはなさそう。末脚は追ってからの反応がやや重く、耐久力を求めるドル〜ハイペースで真価を発揮する。サトノマネが飛ばすだろうから展開は向きそう。

2. リクエストソング(後藤浩)
後方から程度速い脚を使えるが、父シンボリ、母父トニーピンらしく見た目の反応はやや重い。前走は案外だったが、中池み超スローのイレギュラーな流れで、テンの2F目の速いラップ時に遅れ分を取り戻して上がった際にテンを浪費したためだろう。指数はそれなりに高いのでうまく捌ければ好走できそう。母父トニーピンは推し材料。

3. サトノマネ(北村宏)
中山を得意とする剛力先行馬。スタートのセンスが素晴らしい、内枠を取った今回、(少なくとも)より来るまでは逃げるのはこの馬だろう。決め手がないので勝ち負けに加わるとは思えない。

4. トライアンフマーチ(武幸)
スタートセンスがあり決め手も持っている馬。前々走までの指数が低く、前走が激った好走だっただけかもしれないが、完璧に立ち回れば可能性がゼロという気はない。

5. ミッキーベトラ(田中勝)
休み明けが弥生賞2着。休養中に成長してればまだ指数を上げる可能性はあるが、弥生賞のレベルが上がるので強気には推せない。決め手がないのでスムーズに先行できたとしても競り負けてしまいそう。

6. ベストメンバー(四位)
後方から脚質とハイペース実績から、展開次第で一発(といっても2着までだろう)の可能性はありそう。ただ、父マンハッタンカフェなのでG1で通用する末脚とまでは思えず、冒頭で検討したように、強い先行馬がいる皐月賞で追込馬が絡むほどの激流になるかは疑問。

7. ナカヤマフェスタ(純名)
血統的には微妙であることが前提だが…。新馬戦は上がり3位以内ではないが、レースをご覧頂けば全然違う印象が得られる。東スポ杯は中池み超スローで指数固定しにくい条件だったし、京成杯は休み明けかつ故障馬の影響を受けて脚も余した。調教師は新馬戦時から絶賛してきたが、全体時計が速いのでG1の流れにも対応できる耐久力があるだろうし、末脚SHPもしっかりしている。見直す手もあるか。

8. メイショウダク(藤田)
馬柱を見と逃げて中京2歳Sを勝っているの逃げ先行馬っぽい。テンは速く当時も紙一重で逃げられただけ。末脚もないので来るイメージはゼロ。

9. イグゼクティブ(松岡)
札幌戦時は使う毎にスタートセンスが良くなっていったが中央開催地ではテンが遅い。京都2歳Sは最内からうまく前に動けたのが勝因で、通常の流れでは前に行けないし、末脚も重すぎる。厳しいだろう。

10. ゴールデンチケット(川田)
スタートが速く、前に行けるセンスはあるがそれだけの馬。中枠なのでポジションも下がってしまうだろうし、追って伸びないのでノーチャンス。

11. アーリーロブスト(福永)
ピッチ走法で直線の加速はまずまず良いが長く脚を使わされると止まる感じ。大物感はない。父パルガムフェローなのでタフ系馬だが、重馬場時に指数を下げており、良馬場のほうが向いている。中枠を引いてしまったことと悪い先行策が取れるのか微妙だが、テンの脚もある馬だし、福永騎手はこの条件で前に行く意識のある騎手なので期待しても良いかも。

12. フィフスベトル(安藤勝)
指数はそれなりに高く、レベルの高いレースで好走歴もあるから絶対ではないと言えないが、父キングダムハムの距離延長は向かないし、前走は中池みペースによる差し込みという印象。枠順からすると外を回すのだろうし、妙味が全く感じられない。

13. モエレキング(三浦)
クローバー賞では強烈な末脚を見せたが、徐々に末脚が弱くなった。距離も長いだろう。外枠だし好走見込みは薄い。

14. アントニオパローズ(角田)
前2走はともに出遅れて、テンの2、3F目の速いところで追い上げていく。ここはロスがあるはずで、また、直線の走りを見ると短距離向きという感じがしない。父マンハッタンカフェでもあり、距離延長でも対応できるのではないかと。ただ、順調さを欠いたのは事実で、三度不器用な競馬になる可能性も高い。軽くおさえるまでか。角田騎手は過去に皐月賞騎乗機会5回中3回も3着に入っている。

15. セイウワンダー(内田博)
朝日杯ではごらんの期待に見事応えてくれて感謝している馬。ただ、指数はほとんど下がっており、今回は大外枠と不利な条件となった。調教から大分良化しているようだが、ピッチ走法で長く良い脚を使うタイプではないので外々を回るのは厳しいと思う。

16. アンライバルド(岩田)
内枠なら買わざるを得ないと思っていたら大外を引いた。スプリングSはイレギュラーな形で外を差した馬もそれほど不利になっていなかったこと、抜け出す脚は確かに速かったが、坂上で勢いは止まっていたことから、大外枠でも中後方待機して外を回して追い上げるには持続性能が足りないと思えて、思い切って軽視に切り替える。

17. シェンヴァルト(北村友)
スタートは普通なのだが、二の脚が遅くガクッと後方へ置いていかれてしまう。この枠でそれをやって、巻き返すだけの末脚もない。今回はレースにならないだろう。

18. リーチザクラウン(武豊)
能力はロジュニヴァースに優るとも劣らない馬。大外枠は距離ロスにつながるが、過去にサニーブライアンが大外枠から逃げ切ったように、コーナーロスがなくなるまで行ききれば不利は減る。ラジオNIKKEI杯ではロジュニヴァースに完敗した格好だが、暮れの非常に重い馬場をハイペースで逃げた分の失速であり、展開のアーヤと片付けてしまっても良い。きさらぎ賞、千両賞、未勝利戦ではほとんど持ったままで上位上がりを出しているように末脚がないわけではなく、今回はやや高速馬場の条件であるから、余程厳しい流れにならない限り上位に残れると思う。奇しくも同枠だった父を超えられるか注目したい。

⑤結論

冒頭の展望、データアート、先行等級、末脚等級、指数、SHPを全て総合し、以下の通り印を打ちました。

- ◎ロジュニヴァース(特に死角なし)
- リーチザクラウン(展開次第も素質は互角)
- △リクエストソング(巻き返し可能、母父TB)
- △アーリーロブスト(データクリア、先行意識有り)
- △ナカヤマフェスタ(休み明けだが耐久力、末脚有)
- 注)アントニオパローズ(おさえは必要という判断)
- 注)トライアンフマーチ(先行センスと末脚有、内枠のため警戒)
- 注)ベストメンバー(激流になった場合の保険)

展開はミドルペース。サトノマネかリーチザクラウンが逃げ、ロジュニヴァース、ミッキーベトラ、アーリーロブスト、ゴールデンチケット、アントニオパローズが先団を形成。4角でサトノマネが脱落、リーチザクラウンが先頭に立ち、ロジュニヴァースが追い上げ、残り100mでロジュニヴァースがきっちり捕え1冠を手にするという想像。

馬券はばらばらと汎山買う予定です。

軽く自己紹介

こんにちは、たまバスと申します。普段は、keibaparkというサイトを母体に、若駒戦(2歳デビュー～日本ダービーまで)の会員サイトを運営したり、ネットラジオをやったりしています。競馬を、日本が誇るレジャースポーツに合言葉として、新しい価値の提供を考えながら日々活動しております。その過程でスカイボットさんと知り合い、去年に引き続き、今年も執筆させて頂きます。拙い予想ではありますが、皆さんのお役にたてるように自分の経験を活かしてしっかり書きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。去年言っていた僕の予想は、今存在する予想理論の基礎をほぼ全て勉強して取り入れた上で、各馬の過去レースを全部見て、そこから浮かんでくるイメージを元に予想するという、一言で言うと直観です。直感ではなく、直観である意味は、感覚的にやるのではなく、しっかり下地を作った上で、競馬という大枠を掴み、そこから一気に本質を掴む。みたいな所から直観という言葉を使っています。が、今年は何とそれが一歩前進しました。説明しづらい直観では無くなったんです。詳しくは本文にて。

2007年皇月賞の借りはいつ返せるのか・・・

2007年の皇月賞、僕はたったハナ差で、単勝100万馬券を逃しました。馬券で忘れられない初めてのレースとなりました。その時僕は、サンツェッペリンの単勝を1万円持っていたんです。その頃から単勝多点多買いを始めるようになり、この皇月賞では、ヴィクトリー、サンツェッペリン、フサイチホウオー、ドリームジャーニーの4頭の単勝を持っていました。ヴィクトリーが勝って、回収率200%で十分プラスだったのですが、クビの上げ下げならもう時の運、そのちよつとした運だけで、100万円を逃したとなると、悔やんでも悔やみきれませんでした。当時、「当たったからそれでいいい」なんて言っていました。が、実は相当悔しかった・・・しかも4頭のBOXで3連単まで当たっていたんです。24円で160万馬券・・・もちろん、読者の何名かの方から、「3連単取れました！！ありがとうございます！！」なんてメールが来・・・僕は一体何をしてるんだと・・・単勝だけで大口払い戻しも早くないでしょうし、そんな理由から、2008年は2007年のリベンジという気持ちで臨み、的中はできましたが今年も一昨年のリベンジという気持ちが強いんです。当たって儲かっているのはわかっているんですが、何故かそんな気分にはなれず、ただただ「今年は何でやるぞ」と。何を狙うかはこの後に譲りますが、とりあえず当てます。この先、後何レース、僕は一生忘れられないレースを見る事になるんでしょうか。その1つ1つのレース、しっかりと見届けたいと思います。今年も素晴らしいレースを期待しましょう♪

今年のクラシック世代への思い

今年のクラシック世代は、若駒分析ナビゲーションを始めた年の最初の世代という事もあってか、僕にとって結構思い出に残る年なのかもしれません。自分が競馬を真剣に始めたのが2001年の秋からなので、この年の皇月賞馬アグネスタキオンのレースは見ていません。翌年のノーリズンからしっかり覚えてます。なのでその次の年に勝ったネオユニヴァースや、その翌年に変則二冠を達成したキングカメハメハが種牡馬として出てきたのがまず嬉しいし、いきなり走る産駒を出してこれ以上ない喜び、楽しみを感じる事ができました。こんなにワクワクすると思っていなかったので余計に楽しかったのを覚えています。「父の走り方に似てるなあ」とか、思

いを馳せながら楽しく競馬に取り組めたように思います。SS世代がいなくなつて3年目、今年は去年と違ってスケール感のある、将来が楽しみな馬が数多くいたように思います。ロジユニヴァースの新馬戦を見た時はビックリしましたし、リーチザクラウンの規格外の走りにも驚きました。ブエナビスタの末脚に凄さを感じ、それらに勝ったアンライバルドはどんなもんなんだと期待に胸膨らませました。小倉ではアントニオバローズ、メイショウドンタクが新馬戦で凄いいレースをし、北海道ではフィフスペトルが出てきて三浦騎手とともに夏競馬を盛り上げました。東京ではブレイクランアウトが出てきました。マイクロコスモスはロジユニヴァースとまた違ったタイプでネオ

ユニヴァースの可能性にワクワクしました。他にも数多くの期待馬が出てきて戦い、あるものは勝ち、あるものは負け、そして残った18頭がこのクラシック第一弾で戦います。僕にとって皇月賞はリベンジすべきレースですので、必ず当たりたいんですが、それと同じ位、この皇月賞を楽しみたいと毎年思います。2歳のデビューから色んな馬を見てきて、勝つべき所で勝てなかったりしたせいでここまでこれなかった強い馬、たくさんいます。ここに出走していない馬たちのドラマを僕たちは知っています。競馬を楽しみながら勝てたら最高ですよ。僕たちは楽しみにしています、だから後は勝ちましょう！勝つからこそ、楽しいんですからね^^

たまバスの予想

今年は面白い枠順になりましたね。外枠絶対不利の中、3強のうち2頭が外枠で、もう1頭は最内枠。穴として面白そうなのがごぞつて内枠に入った為、狙いがいがありそうです。まず展開から考えていきましょう。逃げるのはサトノロマネでしょうか、近2走で逃げているサトノロマネは3番枠、対してリーチザクラウンは18番枠、普通に考えればサトノロマネですが、リーチザクラウンは一歩が大きいスピードが違うかどうかどうも行っちゃうんですよね。ただでさえ初輪送でテンション上がる心配なのに、無理して抑えるのかなあと思ひます。気性的に差す競馬はしないと思うんですよ。となると、まずは内からサトノロマネが先手を取りそうな所をリーチザクラウンが外から絡んでくる。ここでお互いがどう出るかが最初のポイント。僕はリーチザクラウンがサトノロマネやその他の馬の後につける事ができるならそう思うと考えてます。目標はあくまでダービーだと思ひながらなんです。多分理想は、2～3番手じゃないかなと。上手く入れられなければ逃げる形になっちゃうでしょうね。どちらにせよ、テンは思つてたより内枠にならず、例年なりに先行しそうです。その後内枠の先行馬続きますが、先行しそうな馬がいっぱいいますね。外枠にいる先行馬はこの時点で不利になりそうです。向正面に入つて少し落ち着き勝負所、サトノロマネが逃げているなら早々にバテてくるでしょうから、リーチザクラウンを始めとした先行勢が3角過ぎから動き出します。リーチザクラウンが逃げてても人気が馬ですから追いかけてます。これも3角辺りか動くと想定。動き出した時の反応と追いつてからしっかり伸びる末脚、急坂を苦にしないパワーがあるかどうか大事になってきます。この辺をポイントに頭ずつ見ていきたいと思いますが、まずは最初に消した馬を。サトノロマネ、MDンタク、イクセキティヴ、Gチケツ、フィフスペトル、Mエキスパート、Aバローズ、Sワンダー、Sヴァルトの9頭、残り9頭を内から見ていきたいと思ひます。ロジユニヴァース、掻き込み型のストライドで、適性は問題なし。走る意欲が感じられ、持っているパワーがしっかり推進力となって出ています。加えてネオユニ産駒の特徴である「追い出してから反応の良さ」があるので、追つてしっかり伸びてくるという安心があります。上がり勝負の瞬間戦になった時の対応が未知数ですが、先行出来る分瞬間力のある馬に対してある程度対抗できるはず。

結局、上がり勝負になった際にどう走り方をするのかかわからないまま本番を迎えますが、レースの上がりか34秒台になるような流れにはならないと思うんですよ。なので、やはり最も勝ちに近いんじゃないかなと思ひます。枠は最内、出遅れられないので不安な所はありません。コース2走目で落ち着きもあるでしょうし、大丈夫と信じましょう。リクエストソング、掻き込み型ストライドで好位から進めるという事で理想の走り方をしています。福寿草特別の瞬発力を見ると後肢にパワーもしっかりあるので、中山の坂も問題なさそう。前走は超Sペースを前半少し掛かりながら行き、直線入ってから2ハロンの上り勝負なので同馬向きの流れではなく、7着も仕方ない所。この負けで人気は落ちるでしょうし、今回は2番枠、後入れ偶数枠でいいですね。上手くスタート出れると面白い一頭になりそうです。トライアンフマーチ、回転力のある掻き込み型ストライドで中山は走れなくはなさそうです。しっかりとした足取りで追われてから伸びる印象。力は足りないですが、先行できますし、人気馬が外枠に入った事もあるのでロスなく進められれば穴馬として可能性はありそうです。馬群の経験もあります。ただ、若葉S後に「本当は溜める競馬の方がいい」と言っているので、後ろから行く可能性もあり、そうすると微妙かも。ミッキーペトラ、掻き込み型ストライドで好位から走るので適性は問題ありません。前走では、休み明け云々で推奨できず悔しい思いをしました。レース自体はスローからの上がり勝負で、前にいた馬が上位を独占しており、2着によって同馬の評価が上がるという事はあります。過去のレースを見ても勝ち上がったレースはレベルが低いですし、弥生賞のようなスローペース+前残り馬場なら穴として考えられますが、そうでなければ厳しいでしょう。ベストメンバーは掻き込み型ストライドで、振り出し型になればマンハッタンカフェ産駒らしくなるのですが、その分差せており、位置取りが後ろでも競馬はできています。内枠引きましたが、騎手を考えると後ろから外回りしそうです。はまれば来るかもしれませんが、全然届かない可能性も高そうです。ナカヤマフェスタは休み明けだが、小柄なので、仕上げにはさほど苦労しないでしょう。前目につけて競馬したいと行っているので、好位進められれば圏内の可能性はありそう。アーリーロブストは振り出しのピッチ走法で、前走が渋った馬場に脚をと

られて全然行けず。今回は良馬場でできそう、3番手辺りで進められたら面白そうだが、リーチとロジの間にいそうな気も。アンライバルドは掻き込み型ストライドで、バランスのいい走り方をしています。頭が多少高いので坂は問題ありません。前走はこれまで一番落ち着いていたようで、気性の成長が伺えます。問題はここまで瞬発力勝負しか経験していないという事。後ろから行く事も名を言いつて、外枠に入った事からもロスが大きくなりそうです。この枠はかなりマイナスですね。3強と言われている中じゃ消すならこの馬でしょうか。最後にリーチザクラウン、掻き込み型ストライドで、スピードの絶対値が他とは違います。大外枠を引いてしまったが、行こうと思えば行けそう。ただ、ダービーに向けて逃げるだろうか？でもスピードが他と違うんですよ。抑えようとするけど無理で行っちゃったという感じかな。どちらにせよ外枠なので、前に壁も作りづらそうで乗り方が難しいかもしれせんね。武豊騎手ならちょっとゲートの出を遅らせて内に入つたりするのかな？長距離輸送は初めてで、テンションが上がらない心配だし、多分抑えようとするればしばらく行きたがるはず。どう折り合いをつけるか。行ききれば馬券圏内は堅そう、抑えれば消えそう。どっちを選択するんでしょうね。

結論

- ◎ロジユニヴァース
○リクエストソング
▲リーチザクラウン
△アーリーロブスト
×ナカヤマフェスタ
☆ベストメンバー

今年はこの感じでいきたいと思ひます。ロジユニは強い、◎その直後辺りにいそう、内でロスなく進めて上がりの掛かる展開が向くリクエストソングが○、前に行けば崩れず走れそうなりリーチザクラウンが▲、好位から上手く乗って来れそうなりアーリーロブストが△、ナカヤマフェスタが×、流れが締まった時に向くベストメンバーが☆

ぶぎーの皇月賞予想2009

文句なくSランク！ロジュニヴァース◎

①主要ステップレース分析

＜見方＞ レース名 3分割ラップ 09年度 (近5年良馬場平均)	前後半ラップ 09年度 (近5年良馬場平均)
ラジオNIKKEI杯2歳S 3分割 35.9-48.3-37.5 (36.9-49.9-35.5)	前後半 59.9-61.8 (61.9-60.4)
S ロジュニヴァース A リーチザクラウン D イグゼキュティヴ	
至上最速とも言える前傾ラップになったにもかかわらず、逃げたリーチザクラウンと2番手から競馬したロジュニヴァースで決まったという異常なレース。上位2頭の能力は完全に抜けていて、3着以降との差はざっと見積もっても3ランク以上。イグゼキュティヴは離れた位置から早めに仕掛けての3角3番手でほぼ理想通りの競馬をしており、リーチザクラウンとの着差は0.4秒差でも実際の能力差はその倍近くあり、上位2頭に勝つためにはこのレースの出走馬相手に力の差を見せ付ける必要がある。	
京成杯 3分割 36.2-51.0-35.5 (36.5-50.2-35.7)	前後半 62.0-60.7 (61.7-60.7)
B アーリーロブスト A ナカヤマフェスタ	
ほぼ例年並のラップだが、中盤が0.8秒遅く中だるみしており、前後半で前半が0.3秒遅いことから、先行馬がやや有利で、瞬発力型の差し馬が例年と比べて不利にならなかったレース。内枠から好スタートを決めてスムーズに先行したアーリーロブストは物理条件を生かせる競馬の上手さを披露したが、展開にも恵まれたレースだっただけに、この程度の着差では物足りない内容。一方、ナカヤマフェスタは内枠から内々をロスなく競馬してはいたものの、道中、折り合いを欠いたところが見られた。最後の伸び脚からアーリーロブスト以上の能力は証明。外々を回したトリオンファレに0.3秒差しかつけられなかったことから、ロジュニヴァース、リーチザクラウンとの比較では分が悪いが、世代上位の能力は間違いない。	
きさらぎ賞 3分割 36.4-37.5-35.0 (36.2-37.2-35.1)	

前後半 49.1-59.8 (48.7-59.8)	A リーチザクラウン C リクエストソング X ベストメンバー
	テンで0.2秒、中盤で0.3秒遅く、上がりで0.1秒速いSペースで前有利だったが、Sペースで馬群が詰まっていただけに、瞬発力型の差し馬には能力を発揮しやすかったレース。世代トップクラスの能力を持つリーチザクラウンがこのペースで逃げれば圧勝は当然。リクエストソングはシンボリクリスエス産駒らしくない瞬発力型の差し馬で、後方で脚をためて瞬発力を生かす競馬。位置取りの不利を換算してもリーチザクラウンから2クラスは下のパフォーマンスで、物理条件を生かしにくい脚質からも人気先行型になりやすく、注意したい。ベストメンバーはSペースを意識したような前に比重をおいた競馬ぶりが好感で、上がりを求められるレースが向かない馬にしては悪くない内容。このレースのパフォーマンスだけならD評価程度だろうが、適性的に度外視できるレース内容という視点からS評価でいいだろう。
弥生賞 3分割 35.9-51.8-35.8 (36.1-50.2-35.2)	前後半 62.0-61.5 (61.3-60.2)
A ロジュニヴァース C ミッキーベトラ C モエレキスパート X アーリーロブスト X セイウンワンダー	
中盤が1.6秒遅いが、テンが0.2秒速く上がりで0.6秒遅いこと、前半が0.7秒遅く後半が1.3秒遅いことから、中だるみではあるが、Sペースというよりは全体的に時計がかかる馬場でのレースだったと考えるのが妥当。見た目の印象から楽逃げに感じるが、このラップを逃げて勝っているのはタフさの証明であり、展開利が大きかったことから、2着以下では着差なりな能力差があると考えられる。ミッキーベトラ、モエレキスパートは内々をロスなく回る完璧な競馬で、ロジュニヴァースとは着差から2ランク程度の差。先行馬アーリーロブストは1角で外を回して位置取りを下げて差す競馬で、こんな競馬をしては惨敗も仕方なく度外視していい内容。セイウンワンダーは終始外を回すロスが多い競馬で、4角で外を回して勝ちに動く負荷のかかる内容。休み明けでもあってパフォーマンスを上げてくる可能性も高く、後は自身の能力の問題か。	
若葉S 3分割 36.4-49.8-35.9 (36.1-49.0-35.9)	前後半 61.5-60.6 (60.8-60.2)

B ベストメンバー D トライアンファーチ	テンが0.3秒、中盤が0.8秒遅い中だるみ気味のSペースで先行馬有利になり、内回り戦としては瞬発力型の差し馬も能力を発揮しやすかったレース。ベストメンバーは大外枠から控えてマクリ気味に進出して前をキッチリと取る強い内容で、ヤマニンウイスキーが直線で不利があったことに救われたものの、このメンバーでは能力上位であることを証明。トライアンファーチは内枠から内々をロスなく回る完璧な競馬で、展開にも恵まれて差されてしまった以上はD評価が妥当というところ。
スプリングS 3分割 36.6-39.0-35.2 (36.1-36.3-36.0)	前後半 49.6-61.2 (48.2-60.4)
A アンライバルド B ファイフステル X リクエストソング X メイショウダンク X イグゼキュティヴ	
テンが0.5秒遅く、中盤が2.7秒、上がりで0.8秒遅い中だるみのSペースで、スピード型の先行馬、瞬発力型の差し馬に有利なレース。外々を回して差しきつたアンライバルドは悪くない内容だったが、大外枠からアンライバルド以上に外を回していたセイクリッドパレードに0.3秒差ではそこまで抜けた能力を証明したとは考えにくい。世代上位の能力は証明したが、自身の得意条件でのパフォーマンスでもあり、ロジュニヴァース、リーチザクラウン級かといえればそれはないだろう。ファイフステルは上がりのかかるレースを差す競馬がベストだが、本質はもっと短い距離にあるため、この距離ではスピード上位の差し馬になる。ゆえに、中だるみになってスピード、瞬発力の限界を問うようなレースになったのは悪くなかったが、それで外を回すロスがあったアンライバルドから0.2秒差というのがこの距離での限界になり、一定の評価はできてもそれ以上の評価は難しい。リクエストソングは瞬発力型の差し馬なので条件は悪くなかったが、スタートから追って位置取りに行つた分、末脚の伸びを欠いた。3~4角でこちやつて位置取りを下けたロスも大きかったし、最後に伸びている以上は度外視できるレースと考えていい。メイショウダンクはスタートから追っていたのに前に行けず中回から差す競馬で惨敗も仕方ないという内容。度外視していい内容だったが、先行馬だけにテンで行けなくなっているのは致命的で、休養を挟んでリフレッシュさせるか、距離延長で楽に前に行ける臨戦は欲しい。イグゼキュティヴは休み明けで得意な展開になったのに氣にしているような敗戦でもなかったが、直線でまったく伸びずに2.3秒差なら体調不良の可能性を考慮すべき。叩いて良化を待ちたい。	

②各馬診断

S ロジュニヴァース ラジオNIKKEI杯で現3歳世代最高のパフォーマンスを見せており、文句なくSランクを与えられる。上級条件で速い上がりは披露していないだけにSペースの上がり勝負には一抹の不安を残すが、サトノロマネが抽選を通過すると、リーチザクラウンが大外枠を引いたことからSペースになる可能性は低くなり、不安要素はなくなった。弥生賞を逃げて勝ってきたのはマイナス材料だが、ラップ分析からSペース楽逃げだったわけではなく材料が明らかに変わったので、大きくパフォーマンスを落とすことはないだろう。芝を刈って外伸びが考えにくい今の中山なら最内枠は好材料だし、横山典騎手騎乗ならロスが多い騎乗をあえて選択することはない。
C リクエストソング 福寿草特別でヤマニンウイスキーを破り、きさらぎ賞でリーチザクラウンから2ランク下のパフォーマンスならCランクは与えられる。中山2000mの内枠は血統的にはベスト条件だが、シンボリクリスエス産駒らしくない瞬発力型の差し馬で、自身の限界パフォーマンスを発揮できるとは考えにくい。能力上位でもなく、適性からパフォーマンス向上が見込めないなら軽視が妥当。
C サトノロマネ テンから34.5-24.5-36.7の前傾ラップを逃げて0.3秒差圧勝だった黄梅賞は悪くない内容。ただ、中山1600mの前傾ラップを逃げて圧勝というのはスピードの比重が高い内容で、クロフネ×サンデーサイレンスという配合ならスピード能力に長けている可能性が高いため、これ以上のパフォーマンスは望みにくい。中山2000mは中山1600mよりスピードが必要ない条件でもあり、評価は下げた。
D トライアンファーチ 若葉SはSペースを内枠から内々をロスなく回して先行する完璧な競馬で、それで敗れている以上は能力不足。再び内枠を引いて物理条件に恵まれそうというメリットはあるが、それを考慮しても掲示板がぎりぎりというところ。
C ミッキーベトラ 弥生賞は内枠から内々をロスなく回して先行する完璧な競馬だったが、過度に恵まれたわけではなく、ロジュニヴァースから0.4秒差という実績を素直に信用していい内容。再び内枠を引いて前走と同じような競馬ができれば、シンボリクリスエス産駒ならペースが上がりそうなことは好材料。妙味も含めて馬券は購入しておきたい。
B ベストメンバー 不得意な条件で粘ったきさらぎ賞、Sペースを後方からマクって快勝した若葉Sと、世代上位の能力は証明していてBランクは与えられる。速い上がりで不得意な差し馬なら、中山2000mである程度の流れが想定されるなら勝ちではなくても好走率自体は悪くない。3連単の3着付け。

A ナカヤマフェスタ 東スポ杯2歳S勝ちの実績ももちろんだが、道中かかるロスがありながら最後まで伸びて勝ち馬以上の能力を証明した京成杯の内容は悪くなかった。好位から競馬できるタイプだし、中枠を引いて競馬騎手騎乗の中人気馬ならロスが多い競馬は選択しないはず。強気に乗って4角で外を回して勝ちに動くような競馬をしなれば。
C メイショウダンク 中京2歳S勝ちにはSペース逃げ切り、若駒S2着は離れた3番手から完璧な仕掛けと、完璧な騎乗での実績ではあるが、Cランクは与えられる。短縮差し凡走後の延長先行は完璧な臨戦だが、テンで追って前に行けない状態での巻き返しは期待できない。
D イグゼキュティヴ スプリングSは休み明けの不得意な展開で度外視していい内容だったが、まった見所の無い惨敗で体調不良の可能性を考慮する場面。ここでの急な巻き返しは難しい。
D ゴールデンチケット 毎日杯はダーゼ替わり延長先行の完璧な臨戦で能力以上のパフォーマンスを発揮した可能性が高く、能力の見積もりが難しい馬。ただ、パフォーマンスを向上してミッキーハンペンに0.1秒差程度では通じないメンバーで、中枠から好スタートを決めてスムーズに先行できたと考えても上位争いまではないと考えるのが妥当だろう。
B アーリーロブスト 弥生賞は1角で位置取りを下げて差す競馬で度外視していい内容で、ヤマニンウイスキーに0.5秒差つけたエリカ賞、京成杯勝ちの内容からBランクは与えられる。中枠を引いたもので多少のロスはあるが、このメンバーでスムーズに先行すれば馬券圏内には残れるはずで、期待値は悪くない。
B ファイフステル 朝日杯FS2着、スプリングSでアンライバルドから0.2秒差の内容からBランクは与えられる。本質的にもっと短い距離に適性があるため、この距離ではスピード上位の差し馬だが、サトノロマネの出走によりある程度の流れが見込めるため、スピードを生かせる可能性が低くなってしまったのはマイナス材料。外気味の中枠を引いて距離ロスも免れないことから、買うとしてもおさえ評価までが妥当。
C モエレキスパート 弥生賞はミッキーベトラ並みのパフォーマンスでCランクは与えられるが、外枠を引いてしまったのはマイナス材料。能力でも劣る上に物理的ロスも免れないことは軽視するしかない。

A アントニオハロース テンから35.1-24.3-35.9の流れを道中動いて先団に取り付いて抜け出して押し切ったシンザン記念は強い内容。ただ、シンザン記念で速い流れを動いて強さを証明したことは距離延長への不安に繋がるし、テンでもつたいたこと、外枠への不安に繋がる。Hペースを前に行って強いというは皇月賞向きだが、距離延長でのパフォーマンス低下、外々を回すロスが発生確率が高く買にくいタイミング。ロジュニヴァース、リーチザクラウンと未対決で人気は下がりそうにないし、妙味を考えれば買ってもおさえ程度に留めるのが無難。
B セイウンワンダー 弥生賞は終始外々を回すロスが多い競馬だったし、4角で外を回して勝ちに動く負荷のかかる競馬だったことから度外視していい内容で、朝日杯FSでファイフステルを破っていたことからBランクは与えられる。これで内枠から巻き返しの可能性もあったが、外枠で距離ロスも免れないことはマイナス材料で、朝日杯FSでもイン差しをしてぎりぎりだった馬が外差しをしてはさすがに厳しい。
A アンライバルド メイショウダンクに0.6秒差つけた若駒S、外々を回して差しきつたスプリングSの内容からAランクは与えられる。能力は現3歳世代でもトップクラスだが、テンが速い馬ではないだけに外枠は堪えるし、瞬発力型の差し馬でサトノロマネが出走してある程度の流れになりそうなのはマイナス材料。3強と評価されていて妙味はないし、ロスを考慮すれば買うとしてもおさえまでか。
D シェンヴァルト デイリー杯2歳S勝ちの実績が光るが、デイリー杯2歳Sはテンから34.5-23.4-35.4のHペースで差し有利のレースになり、完璧なイン差しでの勝利だけに高い評価はできない。外枠を引いた差し馬で距離ロスは免れないし、能力不足で物理的ロスが免れない馬は評価できない。
A リーチザクラウン ラジオNIKKEI杯は至上最速ともいえるHラップを刻んで逃げて0.7秒差という強い内容で、Sペースになったきさらぎ賞を逃ければ圧勝も当然。能力が高いのは間違いないが、Aランクは妥当な評価。大外枠を引いてしまったが、テンが速い馬で前に行ききつてしまえばロスはない限に抑えられる。ただ、サトノロマネが逃げると考えれば距離ロスはゼロにならないわけで、Sペースの上がり勝負になる可能性も低くなり、ロジュニヴァースを逆転するのは難しくなりました。さらに、Sペースを楽に逃げて勝つ後のM~Hペースは馬にとって厳しく感じるし、パフォーマンスを下げた場合も可能性もあって評価しにくいタイミング。能力は認めつつも、相手本線としては買にくい。

③予想

◎ロジュニヴァース、○ナカヤマフェスタ、▲リーチザクラウン、△ミッキーベトラ、×アーリーロブスト